

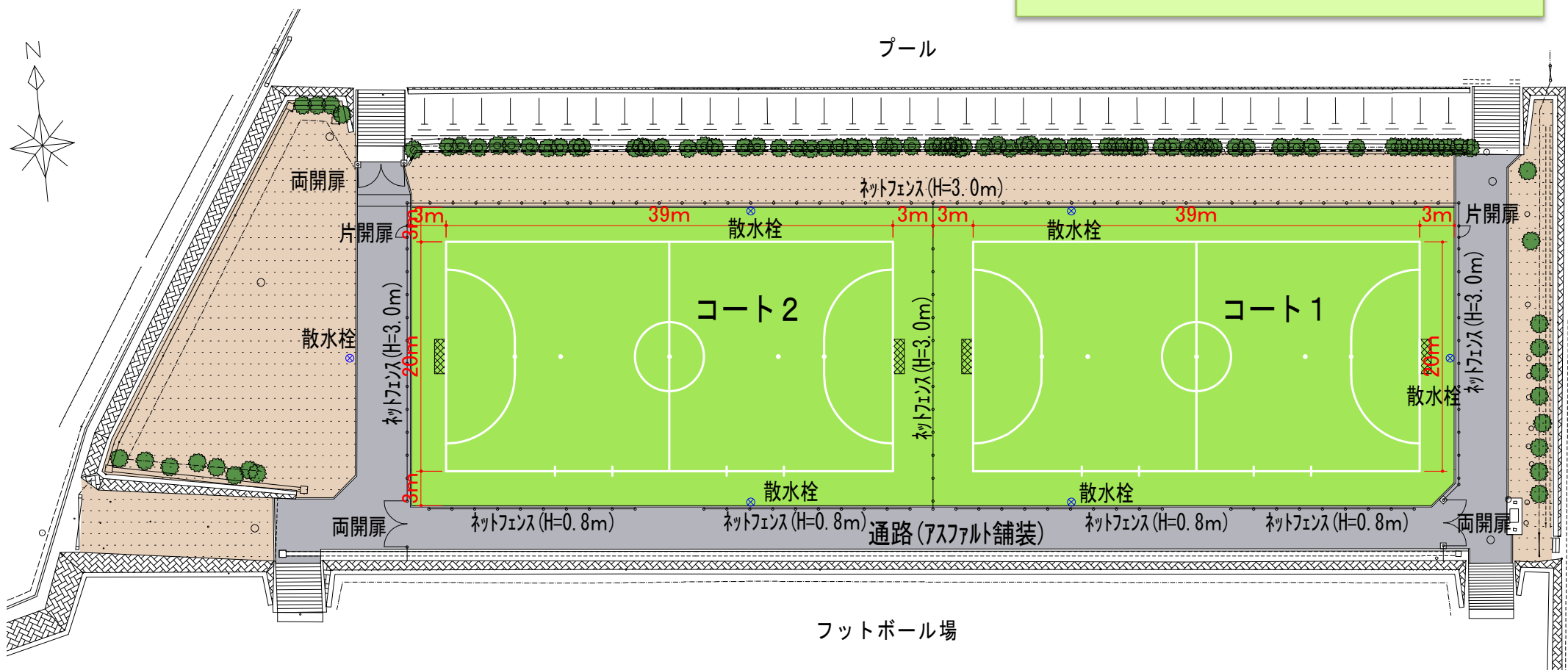
# 横浜国立大学常盤台南地区フットサル場整備概要

## 【工事概要】

工事件名	横浜国立大学(常盤台)南地区フットサル場改修他工事
工事内容	人工芝舗装グラウンド、給水・排水設備の整備、グラウンド周囲通路のアスファルト舗装、防球ネットフェンスの敷設
工事規模	施工面積3,050㎡(人工芝2,360㎡+アスファルト舗装690㎡)
工期	平成26年1月～3月(3ヶ月)
設計	横浜国立大学施設部、(株)創和測量コンサルタント
施工	(株)スポーツテクノ和広

## 【グラウンド仕様】

コート	ロングターフ人工芝コート 2面 コートサイズ: 39m × 20m ※国際試合規格に適合
付属設備	ゴール(2組)、散水栓(6箇所) 防球ネットフェンス 三周+コート間: 高さ3m コート・フットボール場側通路間: 高さ0.8m



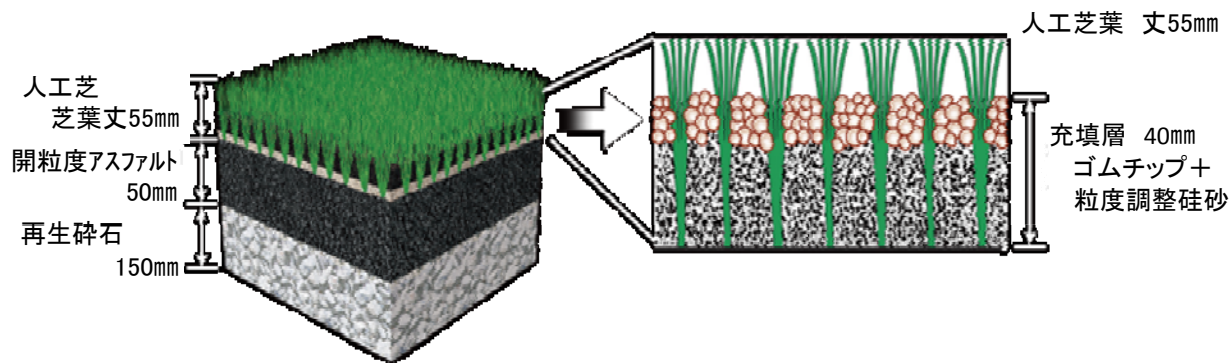
フットサル場平面図

0 5 10 20 (m)

## 人工芝仕様

Jリーグ関係施設等多くのグラウンドに採用されている積水樹脂製「ドリームターフMspro2055」を敷設。丈55mmと長めの人工芝葉は、自立性と復元性が高くメンテナンス性能に優れています。また、芝葉の隙間に充填されたゴムチップと砂を混合した層は、柔らかな感触で安全性も高く、天然芝と同じような感覚でのプレーを可能とします。

下層の路盤は、開粒度アスファルト舗装と碎石層とによる透水層となっており、さらにその下には透水性排水管も埋設されております。これにより、コート表面の水はけは良好で、雨の日でも快適にプレーできます。

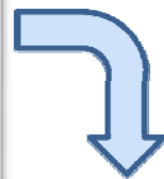


## 工事の流れ

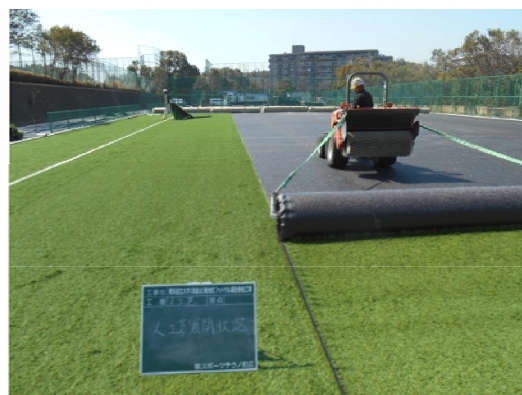
透水性排水管を埋設し、整地後、再生碎石を敷き均し、転圧機械により締め固めます。



開粒度アスファルト混合物を均一な厚みで敷き均し、転圧機械により締め固めます。



完成



ゴムチップと砂を散布し、専用の機械によりブラッシングを行い、全体に材料を充填させるとともに、芝を掻き起こします。

ロール状の人工芝を敷き込み、ジョイント部を専用の接着テープにより貼り合わせます。